

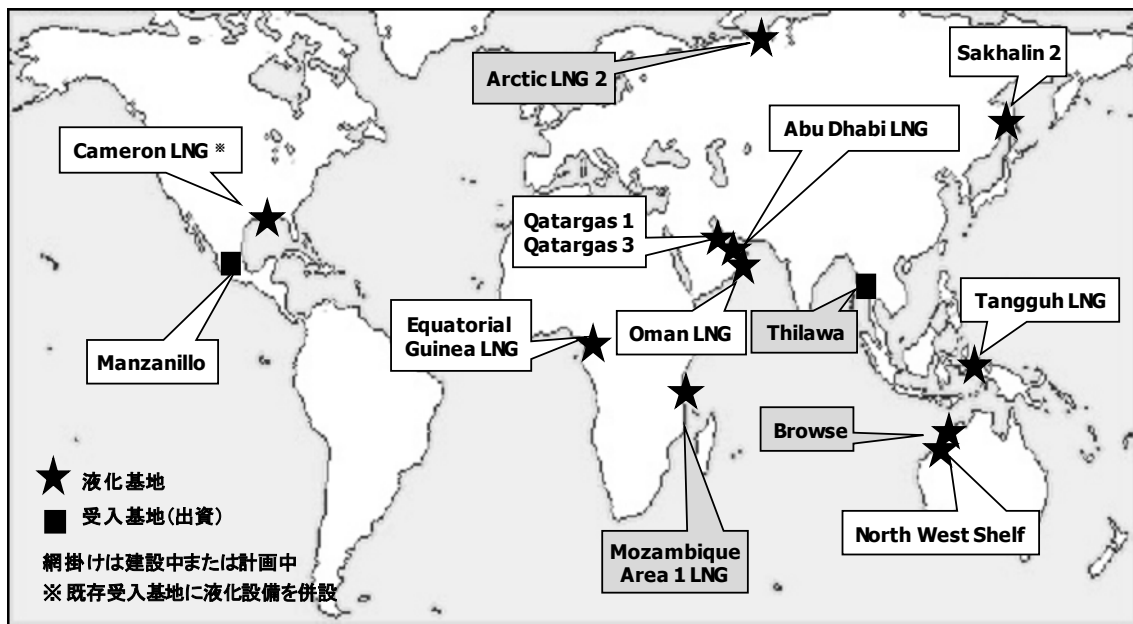
## 24. 三井物産

### (1) 企業概要

三井物産は、1977年に生産を開始したAbu Dhabiプロジェクトに参画以来、数多くのLNGプロジェクトに携わってきた。三井物産の天然ガスおよびLNG事業は、エネルギー第一本部とエネルギー第二本部が行っている。エネルギー第一本部では、石油、天然ガス(米国シェールガス事業を含む)の探鉱・開発・生産事業に関する業務と、石油・石油製品、一般炭、バイオ燃料、原子燃料の輸出入・外国間取引に関する業務を行っている。エネルギー第二本部では、LNG・天然ガス事業への参画・推進、LNGトレーディング・物流事業を行っている。また、2020年4月にエネルギーソリューション部を新設、次世代電力や、水素・バイオマスといった次世代エネルギー事業に関する業務を行う。

2020年3月期の原油・ガス持分権益生産量の実績は、原油が7.8万boe/d、天然ガスが18.1万boe/d、合計25.9万boe/dとなる見通し。

三井物産のLNG液化・受入基地図



### (2) LNG 関連

三井物産は、LNGの生産・輸送・マーケティングまでの全バリューチェーンに幅広く関与している。北米・アジア太平洋・中東・ロシア・アフリカに供給源を有しており、地域多様性のあるポートフォリオを形成することで、日本を始めとするアジア諸国へのLNG安定供給に寄与している。競争力のある天然ガス資産ポートフォリオを構築、LNG物流ポートフォリオの拡充・最適化を基本戦略としている。

#### IV. 主要企業別 LNG 事業動向

### 三井物産が出資する LNG プロジェクト

| 国名            | プロジェクト名<br>(Train名)                     | 液化能力<br>(万トン/年) | 生産開始                | 出資者  | 主要仕向地         |
|---------------|---|-----------------|---------------------|--|---------------|
| UAE<br>(アブダビ) | Abu Dhabi LNG<br>(Train 1, 2)           | 560             | 1977年               | ADNOC LNG (ADNOC 70%, 三井物産 15%,<br>bp 10%, Total 5%)   | アジア           |
|               | (Train 3)                               |                 | 1994年               |  |               |
| オーストラリア       | North West Shelf<br>(Train 1-2)         | 500             | 1989年               | Woodside 16.7%, Shell 16.7%,<br>BHP 16.7%, bp 16.7%,<br>Chevron 16.7%,<br>MIMI(三菱商事 50%, 三井物産50%) 16.7%  | アジア           |
|               | (Train 3)                               | 250             | 1992年               |  |               |
|               | (Train 4)                               | 440             | 2004年               |  |               |
|               | (Train 5)                               | 440             | 2008年               |  |               |
|               | Browse<br>(NWS LNG向け原料ガス)               | N.A.            | 2026-2027年<br>(計画中) | Woodside 30.60%, Shell 27.00%, bp 17.33%,<br>MIMIブラウズ(三菱商事 50%, 三井物産<br>50%) 14.40%, PetroChina 10.67%   | N.A.          |
| カタール          | Qatargas 1<br>(Train 1-3)               | 960             | 1996年               | Qatargas ( QatarPetroleum 65%,<br>ExxonMobil 10%, Total 10%, 三井物産 7.5%,<br>丸紅 7.5%)  | アジア、欧州        |
|               | Qatargas 3<br>(Train 6)                 | 780             | 2010年               | Qatar Petroleum 68.5%, ConocoPhillips<br>30%, 三井物産 1.5%  | アジア、欧州        |
| オマーン          | Oman LNG<br>(Train 1, 2)                | 710             | 2000年               | Oman LNG (オマーン政府 51%, Shell 30%,<br>Total 5.54%, KOREA LNG 5.0%,<br>三菱商事 2.77%, 三井物産 2.77%,<br>Partex 2.0%, 伊藤忠商事 0.92%)   | アジア           |
| 赤道ギニア         | Equatorial Guinea LNG<br>(Train 1)      | 370             | 2007年               | Marathon 60%, Sonagas 25%,<br>三井物産 8.5%, 丸紅 6.5%   | 欧州、南米、<br>アジア |
| インドネシア        | Tangguh LNG<br>(Train 1, 2)             | 760             | 2009年               | bp 40.22%, MI Berau B.V.(三菱商事 56%,<br>INPEX 44%) 16.3%, CNOOC 13.9%, 日石ベ<br>ラウ石油開発 12.23%, KG Berau<br>Petroleum 8.56%, KG Wiriagar Petroleum<br>1.44%, エルエヌジージャパン 7.35% | アジア           |
|               | (Train 3)                               | 380             | 2021年<br>(建設中)      |  | アジア           |
| ロシア           | Sakhalin 2 (Train 1, 2)                 | 960             | 2009年               | Sakhalin Energy Investment Company<br>Ltd.(Gazprom 50%+1株, Shell 27.5%-1株,<br>三井物産 12.5%, 三菱商事 10%)  | アジア           |
|               | (Train 3)                               | 約500            | 計画中                 |  | N.A.          |
|               | Arctic LNG 2 (train 1)                  | 660             | 2023年<br>(建設中)      | Arctic LNG (NOVATEK 60%, Total 10%,<br>CNOOC 10%, CNPC 10%, Japan Arctic<br>LNG(JOGMEC 75%, 三井物産 25%),10%)   | 欧州、アジア        |
|               | (train 2)                               | 660             | 2024年<br>(建設中)      |  |               |
| (train 3)     | 660                                     | 2026年<br>(建設中)  |                     |  |               |
| アメリカ          | Cameron LNG<br>(既存受入基地に併設)<br>(Train 1) | 1,200           | 2019年               | Cameron LNG (Sempra 50.2%, Total 16.6%,<br>JLI(三菱商事70%, 日本郵船30%) 16.6%,<br>三井物産 16.6%)   | アジア           |
|               | (train 2, 3)                            |                 | 2020年               |  |               |
|               | (Train 4, 5)                            | 800             | 計画中                 |  |               |
| モザンビーク        | Mozambique Area 1<br>LNG                | 1,310           | 2024年<br>(建設中)      | Mozambique LNG 1(Total 26.5%,<br>MEPMOZ(三井物産50%,JOGMEC50%)20%,<br>ENH 15%, Bharat PetroResources 10%,<br>ONGC 16%, Oil India 4%,PTTEP 8.5%)                              | アジア           |

米国では、Cameron LNG に参画し、2019年8月に Train 1、2020年3月に Train 2、同年8月には Train 3 が商業運転を開始し、当初計画した3系列がすべて完成した。三井物産は同プロジェクトにおいて20年間、年間400万トンの液化加工契約を有しており、同プロジェクトの稼働により、三井物産のLNGの取扱規模は約700万トンとなる。

インドネシアでは、Tangguh LNG に KG Berau Petroleum 並びに KG Wiriagar Petroleum を介して出資しており、拡張を目指し現在 Train 3 を建設中である。

ロシアでは、2019年6月にNOVATEKの主導するArctic LNG社の持分をJOGMECと共同で10%取得し、Arctic LNG 2に参画した。2019年9月にはFIDを実施、年間約200万トンのLNGを引き取り販売する方針である。

モザンビークでは、Rovuma堆積盆地Area 1鉱区からの原料ガスを利用したMozambique Area 1 LNGに参画、2019年6月にFIDを実施した。2020年にはファイナンス契約を締結し、2024年の生産開始へ向けて進捗している。

三井物産の持分LNG年間生産能力は、2025年には1,000万トン超となる見通しである。

### 三井物産のLNG契約

| 輸出国  | プロジェクト                    | 契約期間<br>(契約年数)      | 契約数量<br>(万トン/年) | 受渡条件   |
|------|---------------------------|---------------------|-----------------|--------|
| アメリカ | Cameron LNG<br>(Train1-3) | 2019-2039年<br>(20年) | 400             | 液化加工契約 |
| メキシコ | Energía Costa Azul<br>LNG | 商業運転開始<br>から20年     | 80              | N.A.   |

### 三井物産が出資する受入基地

| 国名    | 基地名                 | 出資者   | 受入能力<br>(万トン/年) | 受入開始           |
|-------|---------------------|---|-----------------|----------------|
| メキシコ  | Manzanillo (Colima) | Terminal KMS de GNL(三井物産 37.5%,<br>三星物産 37.5%, KOGAS 25.0%) | 380             | 2012年          |
| ミャンマー | Thilawa             | Eden group, 丸紅, 住友商事, 三井物産                                  | N.A.            | 2026年<br>(計画中) |
| 日本    | 相馬LNG基地(2期)         | 福島ガス発電(石油資源開発 33%, 三井物産 29%, 大阪ガス 20%, 三菱ガス化学 9%, 北海道電力 9%) | N.A.            | 2020年          |

三井物産は、メキシコManzanillo LNG受入基地に参画しており、同国での火力発電所の運転・電力販売やガス配給事業等の下流事業も展開している。また、パキスタンで浮体式貯蔵再ガス化設備(FSRU)の長期傭船事業を通じた、浮体式LNG受入基地事業へも参画している。2020年4月には参画する福島ガス発電所が商業運転を開始、同発電所向けにLNGを供給する。2020年7月、ミャンマーThilawaでのLNG火力発電プロジェクト開発への参画が公表され、1,250 MWのガス火力発電所、陸上LNG受入基地の事業性調査を開始した。

### (3) 今後の戦略

三井物産は2020年5月、新たな中期経営計画を発表した。足元の事業環境の劇変に対応し、成長軌道への早期回復を目指す。エネルギーセグメントにおける基本戦略としては、①原油・ガスの生産量・埋蔵量・LNG生産能力の増強、②既存資産の競争力強化、③トレーディング収益拡大、④再エネ・新エネ事業の拡充を掲げる。また、気候変動を重点課題とし、気候変動対応に資する天然ガス・LNG、再生可能エネルギーを中心としたプラットフォームを構築、2050年の「あり姿」としてNet-Zero emissionsを掲げ、ESGを中心としたサステナビリティな経営を進める。